

障害者就業支援のスタートライン

靴磨きで企業とつながる



同サービスの技術支援・監修をする靴磨き世界大会の初代チャンピオンの長谷川さん

障害者就業支援のスタートライン（東京、西村賢治社長）は、靴磨きを障害者が担う新たなサービス「タスキシューシャイン」を今秋からスタートした。プロの技術指導で、障害者が能力を発揮する場を創出するとともに、障害者雇用が義務付けられている大手企業での雇用率・定着率向上にもつなげる。靴磨き世界大会の初代チャンピオンで靴磨き専門店「プリフトアッシュ」創業者でもある長谷川裕也氏が技術支援・監修で協業している。

（大竹清臣）

プロのノウハウで

同社が手掛ける「タスキ」サービスは、多様な人が同じ空間で働くことを目的として、コーヒー提供な

ど靴磨き以外の分野でも実施している。様々なジャンルのプロが持つノウハウと障害者雇用支援のノウハウを掛け合わせ、障害を持つ社員がその他の社員と同じ

同じ空間で多様な人が働けるように



空間で行う業務を創出し、活躍の場を広げる。今回の靴磨きサービスは、企業内に働くスペースを設けてもらい、障害者が従業員の革靴を磨き、スニーカーなどの汚れも落とす業務を担う。後回しになりがち革靴のケアで、従業員

満足の向上や福利厚生の大に繋げる。身だしなみを整えることは、自分自身を大切にセルフケアに結びつき、仕事のパフォーマンスアップも期待できるという。また、受付などエントランスに靴磨きカウンターを設置すれば来客向けサービスとなり、靴の予約や受け渡しなどの接客業務も可能だ。

3年で500人雇用へ

採用から研修、定着支援までスタートラインが支援するため、初めての障害者雇用でも安心だという。事前の技術研修で20日以上50〜60足の練習を重ねる。導入初期は黒・茶の革靴やスニーカーからスタートし、半年〜1年後にはスエードやエナメル素材などへの対応も可能となるよう、段階的な研修と技術習得を支援する。障害者用マニュアルを作成し、細部まで分かりやすい指導を心掛ける。定期的な面談やメンタルケアなどでもサポートする。靴磨きは地味で繰り返しの作業も多いが、経験を積みめば技術も向上できる。手順が明確で、ビフォーアフ

ターが視覚で確認しやすいため、様々な障害特性にもマッチする。障害者雇用は首都圏では事務職や清掃業務に集中し、地方では仕事を選べない状況なので、同サービスが新たな雇用の選択肢となりうる。障害者支援の経験もある長谷川氏は「障害者が高い専門性を持った職人技術を習得し、誇りを持って働ける場」

を創出する当事業への協力を惜しまない」と強調する。先行するタスキコーヒーは、焙煎前の豆を選別し社内の小さなカフェでハンドドリップのコーヒーを提供したり、ノベルティーとしてドリップバッグを制作したりするもので、24年6月に開始。25年9月にはオフィス内でパンを購入できる

タスキブレッドも始めた。現在、15社以上が導入しており、先行したコーヒーと靴磨きを組み合わせたサービスの提供も可能だ。新たなサービス開発や地方との取り組みを含め、3年で500人の雇用創出が目標。サービスの広がりや社内での多様性や共生への理解の深まりに期待する。